

## 【家庭数配布】



令和2年10月2日

保護者の皆様

南アルプス市立櫛形西小学校  
校長 小田切 英史

### 令和2年度 前期学校評価の結果について

秋冷の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。過日行われました運動会におきましては、規模が縮小されたにもかかわらず、保護者の皆様のご支援ご協力のもと、子どもたちは一生懸命練習してきた成果を発揮することができました。皆様のご声援に感謝申し上げます。

さて、今年度の前期学校評価の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

#### 【1】評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない)

#### 【2】全体的な傾向

教職員による自己評価、児童・保護者によるアンケートを通じて、3者ともに、多くの項目で【A】【B】評価の合計が80%を超え、肯定的な評価がされていました。一方、【C】【D】評価の合計が20%を超えたものは、児童については4項目、保護者については7項目でありました。昨年度と比較すると、【C】【D】評価の割合が高くなってきており、様々な場面で改善が必要な状況にあると推察できます。中には、【A】【B】評価が70%を下回る項目もあり、早急に改善しなければならない状況にあるものがあります。

しかし、中には好転の兆しが見られる項目もありました。「子どもは、食べ物を大切にし、好き嫌いをなく食べることができた」については、昨年度と比較して、児童・保護者ともに若干【A】【B】評価が高くなってきました。

学校生活全般についての調査項目（児童：「学校は楽しかった」 保護者：「子どもは楽しく学校へ行っていた」）では、児童・保護者とも80%ほどの【A】【B】評価を得られていますが、十分に満足できる状況にあるということができないと考えられますので、『改善の余地がある状況』にあると判断できます。



#### 【3】個別の分析

##### (1) 【確かな学力】にかかわって

- 学力 = ①基礎的・基本的な知識・技能の習得  
②思考力・判断力・表現力  
③学習意欲・態度

教職員による自己評価においては【A】【B】両方を加えた肯定的評価は、昨年度に引き続き、今回も90%を下回る項目はありません。一見すると良好な状態ですが、【A】評価についてみていくと、「個に応じた指導法の工夫・改善に努めた」が80%の回答を得られている以外、50%以下の【A】評価です。特に気になるのが、この項目以外に【C】【D】評価がつけられている点です。教師集団は、「基礎基本の習得」「学習意欲を高めるための工夫」「キャリア教育の推進」「体験的学習・言語活動を重視した思考力・判断力・表現力の育成」「家庭学習の習慣化」のような今日的な教育課題に対して、今年度のように不十分な授業時数や学習内容の組替・合成、学習指導形態の大きな制約の中でも、真摯に向き合い取り組んでいるところですが、十分な結果を残すことができていないという判断から回答したと考えられます。どんな状況下でも、児童に良い結果をもたらすことができるよう、今後も個々の教師が改善に向けて取り組むだけでなく、校内研究を中心にさらなる授業改善に取り組み、授業力や教師力を向上させ、児童に確かな学力を育てるように努めていくことが大切だと考えます。【B】評価にとどまっているものを教師自身が十分な手ごたえを感じられる【A】評価にできるように、今回の結果を生かしていきたいです。教師にとって「わかる授業」「楽しい授業」を子どもたちに施すことや、「自ら学ぶ意欲を高める学習指導」は職務の根幹をなすべきものなので、そのことを忘れずに、日々の職務に精進したいと考えます。



児童の回答結果を見てみますと、学習理解・学習指導には満足できる評価を得ていますが、発言等に対する回答が十分ではないようです。今後の授業づくりに工夫を施すための視点が与えられていると判断できます。また、保護者アンケートを見ると、学習の進め方に対して改善を求めてもらいたいという気持ちが強く表れていると感じます。その根拠となるのが、家庭学習についての回答結果です。臨時休業が長期にわたって続いたことで、家庭学習をせざるを得ない状況の中、家庭にいる際の子どもの学習に対する関心が高くなり、その取り組み方や理解の様子を見ての判断だと考えられます。また、学校からの課題の出され方や地域によって行われているオンライン授業への期待感が、このような回答に反映されていると思われます。

## (2)【豊かな心】にかかわって(いじめに対する取り組みを含む)



いじめを防ぐことは喫緊の教育課題であり、本校でも最重要課題としてとらえ、年度初めに「いじめ防止のための基本方針」を全職員で確認し、その上で児童一人一人と密接に関わり、教職員間で活発な情報交換を行ってきています。

しかし、児童のいじめに関する児童の回答結果は、「はい」と回答されたものは5名でした。友達から嫌な思いをされた児童が、僅かですが存在しています。前年度と比較すると半数以下の数に減少し、改善傾向にありますが、「0」を目指していかなければなりません。道徳の時間や日常の指導の中で、相手の立場に立ち、友達と関わっていけるよう、今後も指導を続けていきます。また、今後なおいっそう児童観察、児童理解に努め、家庭と連携しながら改善していかなければならないと考えています。

本校の課題である「子どもは、家の仕事をすすんでしていた」は、今年度も保護者の方々から【C】【D】評価が高い状況でした。勤労意欲に関わる児童の回答では、90%以上の【A】【B】評価を得ていますが、環境が違くと子どもの見せる姿が違うことがわかります。変わってしまった要因があるのでしょうか、時と場所に拘わらず同じ姿を見せられることを求めたいです。

情操教育に関わっても【A】【B】評価が80%を下回る結果となっています。新型コロナウイルス感染予防のために、読書ボランティアの方々にも来校を遠慮することになってしまい、読み聞かせの機会がなくなってしまうたり、音楽の授業そのものに制約が課せられてしまい、楽曲をうたうことも楽器を演奏することもできない状況になって音楽発表もできなかつたりした結果だと考えられます。

また、人間性を育むうえでも重要となる体験活動についても同様のことが言えます。学校でしか味わうことのできない諸活動が制約されてしまったことで、満足できる結果が得られなかったことは、非常に残念なことです。

「あいさつ」については、三者ともに【A】【B】評価が85%近くあり、「満足できる」状況にあると考えられますが、昨年度の評価委員会から、「あいさつができていない」ことを指摘されおり、子どもたちに実践力が身につけているかを地域の方々からも伺いたいところです。



ネット接続可能な情報端末の所有率については、年々増加傾向にあります。高学年になるにつれその傾向は高くなりますが、低学年においても若干高くなってきています。そこにある利便性だけを享受できればいいですが、その使用による問題が生まれてしまっています。使い方を一つ間違えると、大きな問題になりかねません。それを防ぐためには、「使い方のルール」作りをしておく必要があります。「使い方の

ルール」を決めて持たせている保護者は91%という高い数値ですが、今年度から質問項目に挙げた「フィルタリングをかけていますか」の問いには、約25%の保護者が「かけていない」と回答しています。これは、トラブルに巻き込まれる危険性がある状態であることを認識してもらう必要があると考えられます。安全に安心して情報端末を子どもたちに利用させるために、その便利さに潜む危険性をしっかり教え、保護者の管理の下で使用させることが大切です。安易にそれらを子ども達に持たせるのではなく、保護者もその危険性を熟知した上で、決められたルールを守るようにすることを啓発していけるようにしていきたいです。例年、5年生の児童及び保護者を対象に、学習会を行っていますが、低学年の時期より学習会等を開催し、保護者の意識を高めていけるようにしたいです。

なお、本校では、携帯電話の持ち込みは原則として禁止しており、保護者から特に申し出があった場合には、検討後に学校長により許可を出すようにしています。

### (3)【健やかな身体】にかかわって

「体づくり」に関しては、学校での様子と家での様子とは差が見られています。本校は小規模校でありながら広い校庭とその他の広場があり、すぐ近くに友達もいることから、学校では運動することができていたと思われませんが、家庭では、新型コロナウイルス

感染防止のために、外での活動にも制約がおよび、家の中での多くの時間を過ごす生活を強いられてしまっていたことが、判断の要因だと考えられます。徐々にその制約も緩和されていくと思われていますが、感染状況によっては、制約を受け続ける可能性も予想されます。

本校が抱える課題の一つに挙げられる「食べ物を大切にし、好き嫌いなく食べることができた」は、例年【A】【B】評価が低い項目です。しかし、若干ではあります。その改善傾向が見られてきています。これまでの「食育の充実」のための給食指導が、少しずつ実ってきていると思われています。今後も健やかな体づくりのために、家庭と連携して児童全員に日々の指導を充実させていきたいと考えています。

健やかな体づくりには規則正しい生活習慣が必要になると考えられます。今回、その様子を把握できていないことから、次年度は、その項目を追加して調査することを検討課題に挙げたいと思います。

学校では地震・火災・不審者に対する対応を、避難訓練や防犯教室・職員の訓練等を年間通して行っています。本年度は、実施できていない訓練が多い現状ですが、確実にスムーズな危機回避行動がとれるようにしてまいりたいと思っています。

自然災害はいつ起こっても不思議ではなく、人災は絶対に起こさないという危機意識を常にもち続け、地域や行政とも協力しながら児童の安全確保に努めていく所存です。

#### (4)【信頼される学校づくり】にかかわって

今年度も優れた地域人材を生かした教育活動に積極的に取り組もうとしました。これまで、どの学年でも教科学習に限らず、様々な教育活動で地域の方や地域の施設・環境にお世話になっていることから、今年度も計画していましたが、それができない状況になってしまっています。その結果が児童の回答にも表れています。昨年度の様子を振り返ると、子どもたちは、それらの学習をとっても楽しみにしており、その学習への熱心さも高かったです。校外学習や地域の方々とのふれあいや地域にかかわる学習は、本校の特色であり、今後も充実させて継続していかなければなりません。地域を知り、考えを深め、学び合いを高めていけるように今後も努め、恵まれた地域の教育力を生かして、伝統ある楡形西小学校の教育活動を推進していきたいと考えます。

保護者の結果から、「学校は、いじめを防ぐための指導を適切に行っていた」の項目では、【A】【B】評価が70%を下回る結果となっています。【E】(わからない)評価を除けば、その数値は約80%になりますが、その結果でも十分とは言えない状況です。これまでとは違う状態で学校生活が始まり、家庭にお



いても子どもたちの言動の変化を察知してのことでしょう。残念ながら、これまで学校開放日が実施できていません。保護者が学校を訪れる機会もほとんどなく、学校の様子を知るための情報が限られてしまっていたことが大きくかかわっているのかもしれませんが。地域に育まれている学校として、身近に感じられるよう多くの方々には足を運んでもらえるはずでしたが、前述の新コロナウイルス感染拡大防止取り組みが影響して遠慮願っている状況です。この問題に限らず「開かれた学校」にしていくためにも、今年度のような場合でも、多くの情報を家庭に届けられるようにして信頼を得られるように努めていく所存です。